

## 令和3年度 第1回滋賀県公立大学法人評価委員会開催結果（概要）

日 時 令和3年7月8日（木）  
14時00分～15時58分  
場 所 滋賀県立大学 教授会室

【出席委員】 浅田委員（委員長）、長上委員、清水委員、中田委員

【事務局】 澤野私学・県立大学振興課長、他関係職員

【県立大学】 廣川理事長（学長）、青木副理事長、山根理事、高橋理事、安原理事  
八里事務局次長、他関係職員

### 1 開会

- 澤野私学・県立大学振興課長挨拶
- 委員、大学および事務局の出席者紹介
- 委員長の選任
  - ・委員の互選により、浅田委員が選任された。
- 委員長代理の指名
  - ・浅田委員長より、長上委員が指名された。
- 委員会の進め方について
  - ・委員会の進め方について、事務局から説明

### 2 学内調査（視察）

- 学内の新型コロナウイルス感染症対策の視察
- 授業見学

### 3 質疑応答

（委員）コロナ禍の対応について、対面授業とオンライン授業の比率はほぼ対面か。

（大学）原則、対面授業で遠隔授業はなかったように思う。

（大学）非常勤の教員が、遠隔を利用して授業を行っている事例はあるが、学生は教室で受講している。

（委員）県立大学は県外からの通学生も多いため、通学に対しての不安を抱えているのではないかと考えたが、県外生が多くても対面授業が実施できているのか。

（大学）配慮を希望する場合は、学生から申請いただき対応することとしている。申請があれば配慮を求める内容について、教育・学生支援担当理事に判断していただくこととしている。

(大学) 学生からの申請は、現在のところない。

(委員) 大学に来て学ぶというのが、学生にとって一番楽しいこと。本学では、対面がメインではあるが、大規模講義については、どうしてもオンラインにならざるを得ない状況。特に大阪からの通学が大変なので、配慮しながら進めている。

(大学) 学生が濃厚接触者に指定された場合、学生から申請があれば、遠隔で授業を受けることもできると伝えているが、そのような申請は出てきていない。

(委員) どの大学も苦勞しているところ。もう一点、コロナ関連で伺いたいが、入試広報やオープンキャンパスなども大変だったと思うが、その辺りはどのように対応されたのか。

(大学) オープンキャンパスは来学中止にし、全面Webオープンキャンパスとしたところ。しかし、準備に時間がかかり、Webで開設できたのも8月の終わりごろとなった。案内等もWebで対応した。  
入試については、コロナの関連で志願倍率等が下がったということはない。むしろ人間看護学部は志願倍率が上がったと聞いている。ただ、Webオープンキャンパスを行ったから倍率が上がったかということとはわからない。

(委員) 受験生もSNS世代なので、違和感なくアクセスしたものと考えられる。

(大学) 昨年度から、入試受付に関してもオンライン対応としている。オンラインにしたことで申し込みも行いやすくなったのではないかと聞いている。初めての試みであったので、改善すべき点等は今後検討する。

(委員) コロナ禍での就職活動や就職動向への影響はどうなっているか。

(大学) 就職率については、全国平均より上で、例年と変わっていない。しかし、活動がWeb中心になってきており、指導方法が大きく変わっていると聞いている。Webでどう自己アピールするかなどかなり苦勞して指導いただいていると聞いている。

(委員) 採用側も色々と苦勞しており、今後も勉強が必要かと考えているところ。求人状況等はどうか。

(大学) 工学部については、若干減っている。ただし、内定率については、コロナ前と同じくらいとなっている。

(委員) 若干回復しているようなことも聞いており、採用側として採用者数は減らさないようにしているが、やっぱり減っているか。

(大学) 減っていると思われる。

(委員) 学内を見せていただき、緑豊富な良い環境だと感じた反面、メンテナンスに費用がかかるようにも感じた。構内を視察していてもガラス張りで雰囲気はすごくよいが、空調の効率という点であまりよくないのではないかと感じる箇所もあり、維持管理に費用がかかりそうだと感じたが、その辺りはどのように評価されているか。

(大学) 視察いただいた工学部はガラス張りになっており、ご指摘のとおり熱効率はよいとは言えない。また、開学から 26 年経過しているため、設備の更新に取りかかっているところで、空調に関しては、集中管理を行っていたが、それではコストがかかるのではないかとということで、個別空調に更新するよう年次計画で進めている。コロナの影響で前期に授業がなかったことなど、一概にいうことはできないが、個別空調に更新した人間文化学部では、昨年度のコストは下がっていると聞いている。

(大学) 冒頭の理事長の話にもあったが、開学から 26 年経過しており、一見きれいに見えるが、通常と異なるデザインのため、雨漏り等がひどくなっている箇所等もある。緑も豊富なため、草刈りにもコストがかかり、通常の大学と比較すると維持管理には費用を要すると考えている。

(委員) 先ほどコロナの話題が出ていたが、オンライン環境の整備については、コロナがあったため、対策を講じたのか、または以前から整備されていたのか。

(大学) オンライン環境については、学内のネットワーク環境が貧弱で、令和 2 年度前期の授業は 5 月からどうするかという議論を行い、5 月 11 日から遠隔で授業を行うに当たり、どういった形で授業を行うかの議論を進めた。オンライン環境のこともあり、オンデマンドで行うこととし、オンデマンドでも動画を流し続ける形態の授業は大変な負担がかかるとともに、受け手である学生にとっても、ネットワーク容量を圧迫したり、ネット環境が整備されていないなどの問題も考えられるため、動画の時間を限定し、資料を添付するなどの対応をお願いした。先生方からは様々な意見があったが、最終的には、危機対策本部員会議で決定し、先生方をお願いした。

(委員) オンデマンドについては、多くの先生が実施し、学生も経験したというのでよいか。オンデマンドは学生にとっても復習がしやすいといった効果もあったと思うが、うまい使い分けや共存して利用するといった点については、現状どうなっているのか。

(大学) ネットワーク環境については、昨年度増強した。今後は、どう活用するのかといった点で課題がある。例えば、反転授業を行うといったことも考えられる。ネットワークを利用し、家で予習をしてもらい、授業では議論を行ってもらうというような授業形態をとることも考えられる。5 月末に保健所から数十人規模の学生に PCR 検査を行うという連絡があった際は、万が一感染が広がっていると大変なことになるため、危機対策本部員

会議を開き、3日間の休校を決定した。幸い全員陰性であったが、広がっていた場合は、オンライン授業への変更の必要もあった。

(委員) 先ほど設備の話も出たが、大規模改修が必要になってくると思う。素晴らしいキャンパスではあるが、20数年たつと色々と手を加える必要がある。金額面でも大きなものが必要になると思うが、その辺りは県とうまく話し、計画的に大規模改修をできるようにすすめているのか。

(大学) 公立大学であることから、歳入のうち一定額は運営費交付金で回っている。運営費交付金とは別枠で、大規模改修や空調、トイレについての改修計画を提出し、補助金をいただいている。

(委員) いわゆる標準運営費交付金と特定運営交付金のような形で別途積まれるということか。

(大学) 運営費交付金に含んでもよいが、そうすると年度によって上下することとなる。それよりもむしろ我々としては、必要なことに必要額を頂くほうがよいので、特別な大規模改修等は補助金という形で頂いている。その部分については、県にも理解いただいているので、計画の中で同意のもと毎年頂いている状況。

(委員) 実験機器で電子顕微鏡をリプレイスされたということで、相当な金額がかかると思うが、大学の方で整備されたのか、大規模な機器整備という形か。

(大学) 今までは、運営費交付金の中で回っていたが、開学当初からの設備や時代に合っていない設備などが多いため、施設整備と同様、計画的に更新を行いたいと考えている。何年間でどのくらい整備するか等を今、県と共通認識を持ちながら協議をしており、運営費交付金に含まれるか等も含め、通常の運営交付金とは別途で協議を始めているところ。

(大学) その辺りで、船の更新や電子顕微鏡の更新ができるようになってきた。県にも少しずつ状況を理解いただき、話のテーブルについてもらえるようになってきたところ。

(委員) 印象としては、県にかなり理解いただいていると思う。大学はやはりお金がかかるもので、古くなっても使えないかと言われると使えるが、アップデートしないと教育・研究が進まない。その辺りを、県に理解いただき、最新のものに計画的に変えていくことをうまくやられている印象がある。

(委員) 学生への食糧支援は続くものか。

(大学) 昨年度前半は、教職員や同窓会から寄附をいただき、それを原資にレトルト食品等購入し、5回ほど配布した。遠隔授業時だったので、申込者を事前に募り、後日渡す形を取っていた。学生のバイトは外食産業が多く、家計が厳しい学生が多い印象。昨年のはじめは、近隣の農家の方々に、規格外野菜を無料でい

ただき、4回ほど学生に支援した。今年度も学生の状況はあまり変わっていない。JAグリーン近江さんに県大の卒業生がいたので、様々な支援をいただいております、今日も300人程度の学生に支援いただいたところ。

(委員) 幅広く要請しているわけではないのか。

(大学) 農業関連の仕事に就いているOBに声を掛けてネットワークを広げていただき、様々な支援をいただいているところ。

(委員) 下宿の学生の方が多いのか。

(大学) 全体の3分の1程度。千人程度。

(委員) 近江楽座について、昨年はほぼできず、今年がリスタートかと思うが、地域の人たちがコロナのこともあり、若い人たちを受け入れる体制になっているか。また、留学について、大学の中には留学を再開しようとしている大学もあるが、見通しはどうなっているか。

(大学) 近江楽座については、御指摘のとおり昨年度上期は全く活動出来ず、9月にプレゼンを行い、スタートした。

活動を円滑に行うため、感染予防の活動指針を出し、学生からは計画を提出してもらい、大学が認めたものについて実施し、終了後も報告を出してもらうという仕組みを作った。地域に入る場合も地域の方にきちんと説明するとともに、各自もしっかりと感染症対策をし、活動することとした。また、オンラインを積極活用し、遠方との繋がりを持つなど色々と工夫をしながら活動し頑張ってくれたと考えている。今年度も少し遅れたが、先月プレゼンを実施し、活動がスタートした。

(大学) 留学に関しては、秋の渡航についてはすべて中止とした。理由としては、留学先が、感染症レベルⅡ以上の地域であったためで、現在、来年春の渡航に向け、説明会を実施している。なお、この秋の渡航は中止したが、オンライン留学については認めている。

(委員) 留学は悩ましい問題で、留学をしたい学生、もしくは、海外で働きたい学生もいるので、そういう学生にとっては、難しい問題。

(委員) オンラインの関連で、企業等になると、営業に来ることを禁止したり、海外への出張もなくなるなど、環境が変化している。その中で、海外に行かなくても対応できている等の話も聞く。Webで様々な仕事を行うことがニュースタンダードのようになりつつあることを実感する。就活の状況も変わってきていると言っていたが、オンラインの技術を身につけるといのは、学生が社会に出る上で、すごく重要になってきたと感じるので、大学としても、対面でコミュニケーションを取ることはもちろん大切だと思うが、オンラインの技術を身

につけた学生をどうやって育てていくかということが重要になってくると考えるし、いい教育になるのではないかと思う。

(委員) 折衝等でのオンラインは増加したし、他府県への出張等も減っている。オンラインでやるのが当たり前のようになってきている。

(大学) 非常にいい御指摘に感謝している。研究室によっては、オンラインを使って繋がりを作る先生もいらっしゃるが、やり方については、教員任せになっており、どういう形がいいのかといったことは、リテラシーといったものを教育の中で育成することは大変重要だと感じた。

○ 閉会